

「地域における就労継続支援・生活介護活動への参加 —障害者とともに同じときを過ごす—」

担当教員名 國則 守生

コース概要

日程	2018年2月1日～23日の4日間
場所	埼玉県三郷市
参加人数	10名

コースのねらい

このフィールドスタディは、短期間ですが、知的障害者・精神障害者が地域で生活するために行う作業や活動に学生が参加して地域での障害者福祉活動を理解し、学生自身が地域で何ができるのかをフィールドで考え実感してもらうことを目的に実施しているプログラムです。人間環境学部で実施される「人間形成」のためのフィールドスタディの1つで、現場でチームとして学習を行うという意味で1つのPBL (Problem-based Learning) と捉えています。

内容

フィールドの現場は埼玉県三郷市の社会福祉法人（緑の風福祉会）で、春季休暇期間の事前に設定された4日間、施設を訪問しました。参加活動は大きく分けて①生活介護および②就労活動（パン・クッキー製作・販売、資源回収、ポスティング、プラスチック部品組立、さをり織活動などの各種の作業・内職活動）の2つの活動に大別されますが、参加学生は施設利用者の4つのグループに対し、1日1グループを体験する形で活動を行いました。

障害者と活動をとにするのが初めての参加学生も多かったが、4日間の実習を通じて、さまざまな気づきを体験しました。

学習を終えて

4日間の実習記録を記載したフィールド・スタディ・ノートを作成（各日には所属した施設側職員のコメントも戴きました）したほか、①人間環境学部生として参加する目的、②参加前後のそれぞれの感想・気づき、③障害者福祉に関する自由調査（障害者にかかわる統計の整理、ノーマライゼーションの思想、わが国の障害者福祉の3つのパートからなる）などを取りまとめた報告書を作成しました。以下は、感想・気づきのなかの振り返りの一部です。

「4日間の実習はあっという間にも感じ、一日一日がとても濃く感じました。初日は、利用者の方との距離感に戸惑いましたが、最終日になると自然と接することができていました。生活介護型と就労支援型のそれぞれの班に関わったことで、福祉サービスの全体の流れを掴むことができました。」（4年 鈴木華奈）

「最初は、「もっと支えてあげなければ」とか「彼らのためにできることは尽くしてあげたい」と思っていました。しかし、職員の対応や仲間の取り組みを見て、私の考え方は一変しました。支援とは力を貸して助けることであり、手厚く世話をすることではない、と肌で感じることもできたのです。まず職員を目線で見ると、声かけをする際に“仲間の強みを生かして”・“それぞれの能力に合わせて”できることを全て任せていたのが分かりました。褒めと励まして温かく見守る環境だからこそ、支援が成り立っているのだと強く感じることもできました。また、私が仲間に「仕事楽しいですか」と訊くとすぐに「楽しい！」と笑顔で返して下さったのがとても印象的です。仲間も自分ができることを任せてくれるのがとても嬉しいんだと思いました。」（2年 梅野夏子）



さをり織の実習



軽作業の実習



フィールド・スタディ・ノートの記入